

優秀賞

ほんの気持ち

宮城県 宮城県仙台二華中学校二年 木坂 公星

「親切」とは何だろうか。相手に何かをし、それが感謝されたらそれは親切なのか。多くの人に親切な人と評価される人が、親切な人なのか。私は、最も重要なのは一番根本にあることで、一番小さなことだと思う。

私は小学三年生の頃、ある「親切」をした。道で転んでいた女性を助けたことだ。学校から友達二人と帰っている途中、自転車ごと横転していた女性がいた。女性は一人で立てない様子だったので私と友達で助けた。しかし、当時の私は「助けた」という感覚よりも「声をかけた」という位の感覚だった。軽く声をかけ、少し手助けをする。生活の中の自然な行為にすぎなかった。

後日、私は驚きの連続だった。助けた女性からの感謝の手紙が届いたことで、私の行動が小学校の全校生徒の前や県の警察署で表彰されることになった

のだ。その手紙は何枚にもわたる長文で、私の行動が何度も評価されていた。そのことを私は誇らしく思い、多くの人から褒め称えられた。

しかし、私は同時に疑問を感じた。私の行動は、手紙を送られ、表彰され、多くの人に認められたから「親切」になったのか。違う。転んでいる女性を見たときに何気なく助けた「ほんの気持ち」こそが親切なのではないだろうか。最も大事なものはこのことである。身の回りによくある、物を貸したり、席を譲ったりすることも私の行動も「ほんの気持ち」があるだけで、全く変わらない日常的でかけがえの無い「親切」なのだ。だから私はここで大きく評価されたのはあまり意識しないようにしている。なぜなら自分が大人数に称賛された衝撃で「何をすると評価されるか」や、「このことをして自分に得があるか」など自分の損益ばかりを考えるようになるか

らだ。そのようにして「ほんの気持ち」を忘れてしまった行動は、もはや親切ではない。

誹謗中傷、いじめ、社会での孤立など現代社会が抱える人と人の関わりの問題は、この「ほんの気持ち」の欠如が問題だと考える。「ほんの気持ち」とは、様々な人と関わり、協力し、より良い社会を創っていくための自然な気遣いである。これが無い社会は、人々が互いに協力しあうことができず発展できない。それどころか、今の時代はスマートフォンやその他のインターネット端末の普及により、一人でいる時間が増えた。そのような社会で人々は「人とのつながり」を忘れ、インターネットなどに夢中になり、一人でも生きていけると勘違いしている。そのため多くの人が人へ気遣いをせず逆に人を傷つけ、より孤立が加速している。この現状を変えるため、人とのつながりが薄れても互いに協力し発展していく社会のために今最も必要なものは、「ほんの気持ち」だ。

幼い頃の経験の喜びと疑念から今なお考え続けている、印象深い感動だ。

